

若者のアクセサリーに対する意識と ファッションとの関係

橋本 令子*・内藤 章 江*

Relation between Consciousness and Fashion to Young Person's Accessories

Reiko HASHIMOTO and Akie NAITO

1. はじめに

ファッションの世界では、70～80年代始めは、ヒッピーの時代であり「遊び」の時代といわれ、90年代はミニマリズムの時代であり「シンプル・イズ・ベスト」の時代といわれた。そして、21世紀に入りファッションは、「より自由な」時代と言われ現在は「ボヘミアン」の時代¹⁾と呼ばれている。

こうした流れの中、より自由にファッションをコーディネートしようとする動きがみられ、現代は服装だけではなくアクセサリーについてもみられる。アクセサリーは服装から受ける雰囲気をも助長する、引き立てる、イメージチェンジをはかるなど、その影響力は大である。最近ではカラフルである、バラエティがある、手作り感がある、個性があるといった言葉を耳にするが、カラーのおもしろさ、変化にとんだデザイン、様々な着用方法などひとつのスタイルとなっている。

これまでバッグ、靴、ベルト、スカーフ、帽子といった実用性の高いアクセサリーが服装イメージに与える影響については、筆者²⁾らも明らかにしてきた。また印象評価という観点から、人に見られたいイメージを想定して服装とアクセサリーのコーディネートについて検討した研究³⁾も行われている。しかし、これらの研究はバーチャルファッションコーディネートソフトを使用し、特定の服装とアクセサリーの中から選択して作製したものを検討してきたものである。

そこで本研究は、現代の若者が日常、身につけている装飾性の高いアクセサリーであるネックレス、指輪、イヤリング(ピアス)、ブレスレット、ブローチを対象として取り上げ、若者が考えるアクセサリーへの意識調査を行うとともに、ファッションとのコーディネート方法について検討した。そして、様々なものに関心をよせる若者ならではの新しい自由な発想、個性表現の一つとして成立しているアクセサリーとファッションの関係を検証した。

* 生活科学部 生活環境デザイン学科

2. アクセサリーに関する意識調査

アクセサリーは、古代から実用的な機能を果たし、豪華なつくりは権力や豊かさの象徴であった。中世から近世にかけては豪華で優美な服飾文化が栄え、アクセサリーのデザインや色彩には宗教的要素が多く取り入れられた。近代になると服装の付属品と考えられていたアクセサリーは、造形的なデザイン性を重視したファッションアイテムとして進化した。そこで意識調査を行い、現代の若者がとらえるアクセサリーに対する考え方を調べるとともに古くから伝えられているアクセサリーの考え方との類似点、相違点を探ることとした。

2-1 調査方法

調査は、集合調査法により2005年6月（初旬～中旬）に行った。対象者は、年齢19～22歳の女子学生100名である。調査するアクセサリーの種類は、ネックレス、指輪、イヤリング（ピアス）、ブレスレット、ブローチとした。

調査内容は、①アクセサリーの所持数、②通学・アルバイト・家にいる時・デート・ショッピング・旅行・運動をする時・友人の結婚式、において身につけるアクセサリーの種類、③アクセサリーを身につける理由、④購入時に考慮すること、⑤古代からあるモチーフの意味、⑥現代流アレンジ方法（本来身に付ける部位以外につける）である。

解析は質問項目ごとに単純集計を行った。

2-2 意識調査の結果と考察

① アクセサリーの所持数は、対象者全員がいずれかのアクセサリーを所持している。所持数の多いアクセサリーはネックレスやイヤリング（ピアス）であり、アイテムとして扱いやすいこと、身につけた際に人が注視する顔部分や首元を飾り一つのポイントとなるため、服装にあわせ多数（10～9種）所持している。所持数の少ないアクセサリーはブローチであり、薄着をする季節には不向きであると考えているようである。

② アクセサリーを身につける場面は、フォーマルな場面、プライベートな場面をとわず、今や日常的に溶け込んでいる。

③ アクセサリーを身につける理由は、古代の4つの起源説⁴⁾に質問を当てはめ、現代の装飾動機と比較し、これを図1に示した。最も多い理由は、“気に入っている”“ファッションのアクセント”という人間の無意識な感情から生まれる遊び心による「ホモルーデンス説」であった。ついで“魅力的に見える”“自己主張ができる”という「自己異化説」、 “おそろい”“流行”という「自己同化説」の出現率が高い。1995年に田中⁵⁾らが調査した結果と比較したところ、現代の若者は、自由に自分なりの個性を表現しようという傾向が強いことが判明した。

④ 購入時に考慮することは、デザイン性97%であり、服装に適したものを購入している。ついで価格71%、似合うこと70%であり、価格が手頃なことや自分が気に入るかどうかは、若者の購買動機の重要ポイントとなる。しかし流行、ブランドは20%以下と低いことから、自分の好みや感性を重視して購入したアクセサリーが、ファッション性の高いもの、ブランド製品であったと判断するようである。

若者のアクセサリーに対する意識とファッションとの関係

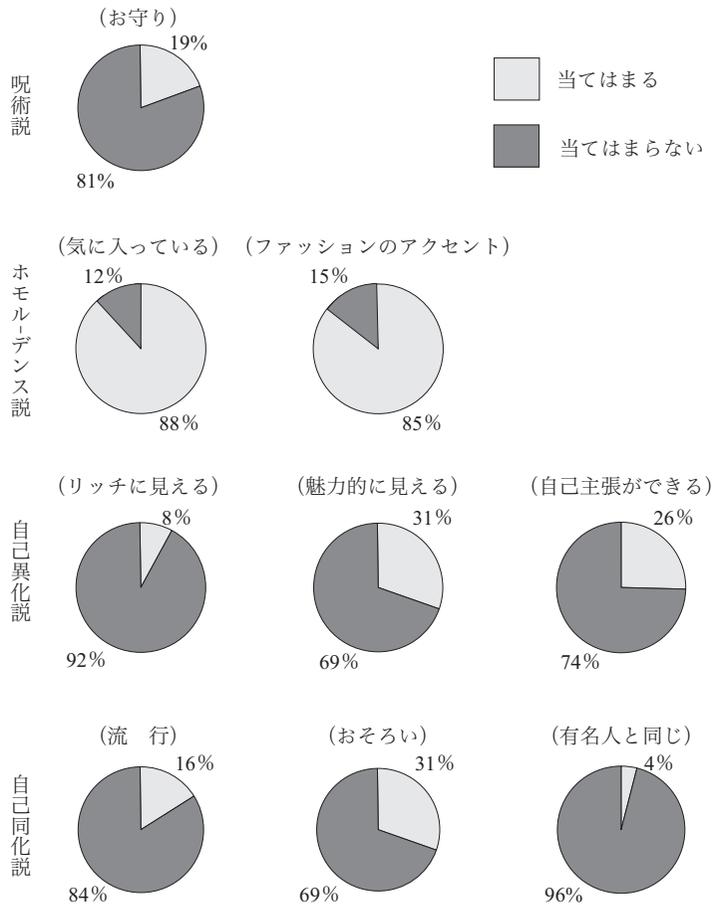


図1 アクセサリーを身につける理由

⑤ 古代からある十字架、ドクロ、植物、動物モチーフ等の意味認識は、ほとんどの対象者が知らないと回答した。古代からモチーフを身につけることは、モチーフが持つ意味により自分に幸福をもたらすためと言われたが、現在は所持していても意味は意識されず、デザインの一部としてとらえているようである。

⑥ 本来身に付ける部位以外にアクセサリーをつける現代流アレンジは、ブローチを鞆につける40%、指輪をネックレスにする27%、ネックレスをブレスレットにする22%を示した。その他、ブレスレットを鞆につける、ネックレスをチェーンベルトにする、ブローチを帽子につけるなど、固定観念にとらわれず様々な着装方法をとっており、他人との差をつけようとする行為は、個性化、より自由な現代の若者の特徴ともいえる。

以上、若者のアクセサリーへの意識は所有率・使用頻度ともに高いことから、今やコーディネートには欠かせないものと言える。そして現代は、古代から受け継がれているアクセサリーの裏側に隠された本来の意識は低く、若者は自分流にアクセサリーを身につけ楽しむ実態が把握できた。

3. 若者のコーディネートイメージ

意識調査より若者の個性化、自由化が進むなか若者が着装している服装とアクセサリから受けるコーディネートイメージを検討し、現代ファッションの傾向を明らかにした。

3-1 イメージ測定方法

先に調査した女子学生100名を対象に、全身の写真撮影をした。次にPhotoshopを用いて目の部分を覆い、背景を白色に加工した。これをA6サイズにカラー印刷し100試料を作製した。

コーディネートイメージは非常に、かなり、やや、当てはまらない、の片側尺度による4段階評価法を用いた。用語はファッションイメージを考え「スポーティ」「マニッシュ」「フェミニン」「モダン」「クラシック」「エスニック」「エレガンス」「アバンギャルド」「デコラティブ」「セクシー」の10語を選出した。

被験者は撮影対象者とは面識がない19～22歳の女子学生であり、25枚1組として、休憩10分をとり順次、評価した。実施期間は2005年9月である。解析は各用語毎の平均値を求め主成分分析を行い、コーディネートイメージを抽出した。次に主成分得点を基にクラスター分析を行い、各クラスターのコーディネート傾向を探った。

3-2 主成分分析による結果

コーディネートイメージを検討するため主成分負荷量を算出した。結果を表1に示す。

第1主成分は「スポーティ」「マニッシュ」の負の主成分負荷量、「フェミニン」「エレガンス」「クラシック」の正の主成分負荷量が高く、「女性的」主成分とした。第2主成分は「アバンギャルド」「デコラティブ」「エスニック・フォークロア」「モダン」の主成分負荷量が高く、「個性的」主成分とした。これまでは「フォークロア・エスニック」に対し「モダン」は反対語として扱われ、負の主成分として抽出されると考えていたが、ここでは正の主成分を示しており、若者は民族的・自然指向と現代的指向は各々独自のイメージ評価をしていることがわかる。これは、ファッションコーディネートに変化が生じてい

表1 主成分負荷量

イメージ	第1主成分	第2主成分	第3主成分	共通性
スポーティ	-0.889	-0.242	0.141	0.868
マニッシュ	-0.884	-0.043	-0.173	0.813
フェミニン	0.872	0.039	0.357	0.889
エレガンス	0.697	0.169	0.572	0.841
クラシック	0.694	-0.030	0.015	0.483
アバンギャルド	0.061	0.919	-0.050	0.851
デコラティブ	0.172	0.894	0.226	0.880
エスニック・フォークロア	0.073	0.685	0.179	0.506
モダン	-0.123	0.621	0.553	0.708
セクシー	0.224	0.214	0.900	0.906
固有値	3.402	2.635	1.706	
寄与率 (%)	34.02	26.35	17.05	
累積寄与率 (%)	34.02	60.37	77.43	

ると推測される。第3主成分は「セクシー」の主成分負荷量が高く、「魅力的」主成分とした。以上、全体の累積寄与率は77.43%であり、若者のファッションコーディネートから受けるイメージは、3主成分で構築されることが明らかとなった。

3-3 コーディネートイメージによるクラスター分析

算出した主成分得点を基にしてクラスター分析を行った結果、ファッションコーディネートのイメージは5グループに分類された。図2は各クラスターに属する試料の平均主成分得点、図3は特徴を表す代表ファッションを示す。

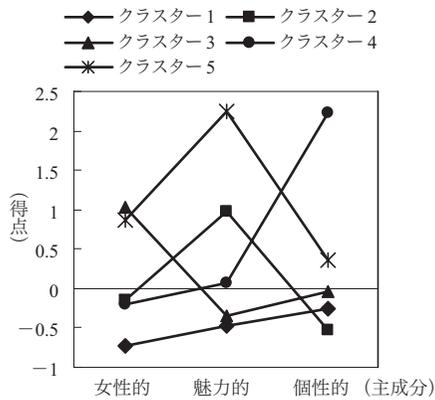


図2 平均主成分得点



図3 代表クラスター

クラスター1. シンプル・パンツスタイル派 (全体：36%)

このクラスターは、上衣がTシャツや長袖、半袖シャツを着用し、色は白や黒、ペールやライトトーンの明るい色、下衣は色落ちやダメージ加工したブルーのデニムパンツが80%をしめる。靴はスニーカー、二股に分かれたサンダルが全体をしめ、服装はシンプルな単色の組み合わせである。アクセサリは小ぶりで、身につける数は1点のみがほとんどである。平均主成分得点を見ると、3主成分とも得点が低いことから、誰もが受け入れやすいノーマルな印象を与えるコーディネートといえる。

クラスター2. 重ね着スタイル派 (全体：17%)

このクラスターは、上衣の重ね着が目立つグループである。下衣はクラスター1と同様、パンツが90%以上をしめるが、ここではロング丈よりもハーフ丈のパンツに太めのベルトが目立つ。靴はスニーカー、パンプスである。アクセサリは1～2点であるがマチス、オペラといったやや長めのネックレスである。平均主成分得点を見ると「個性的」要素が高いことから、重ね着の効果が影響していると推察される。しかしこの重ね着は、他のクラスターに比べ砕けた着装に映り、ボーイッシュな印象を与えるコーディネートでもある。

クラスター3. 女性的スタイル派 (全体：28%)

このクラスターは、スカートを履いている人が70%と他のクラスターに比べ多い。上衣はブラウス、シャツ、カーディガン、チュニック丈のミニドレス、これにレース、リボン、フリル、ドレープが入ったピンクや薄紫の明るい色の服装が目映る。アクセサリは、リボン、天使、ハートなど女性らしさ、かわいらしさを思わせるモチーフで、小ぶりのペンダントネックレス、ピアスを身に付けており、平均主成分得点からも「女性的」要素が高いコーディネートである。

クラスター4. 魅力的スタイル派 (全体：13%)

このクラスターは、着装方法が清楚な印象を受ける。服装は目立つ柄でもなく重ね着でもなく、単色でシンプルなデザインの服装である。他のクラスターと異なる点は、身につけているアクセサリの数が4～7個と多数重ねており非常に存在感がある。平均主成分得点から、「魅力的」要素が非常に高いが、パンツを組み合わせた着装もあることから「女性的」要素は低い。しかし決して男性的イメージを感じさせないのは、先述した理由であると考えられる。

クラスター5. 個性的スタイル派 (全体：8%)

このクラスターは、最も少数派のクラスターである。上衣や下衣に重ね着や大きな目立つ柄、色を合わせた着装方法で、「エスニック」「アバンギャルド」という評価を持ち、個性的な印象を持つ。アクセサリは、ペンダントトップが大きい長めのネックレス、彩色が施された幅広のプレスレットなど、存在感があるものを身につけている。平均主成分得点からも「個性的」要素が非常に高い得点を示し、難しいコーディネートであるといえる。

以上、若者のファッションコーディネート方法の特徴をつかむことができた。

4. アクセサリーと服装の組み合わせ効果

各クラスターを代表する2試料を選出し、装着しているアクセサリと服装を分け、組

み合わせを各々変化させてみることにより、コーディネートイメージにどのような変化が生ずるか、先のファッションコーディネートに限定されないアクセサリと服装との組み合わせ効果について考えることとした。

4-1 試料作製方法

各クラスターの代表は、図3に示す10試料である。試料作製方法を図4に示す。最初に、標準体型のモデル(身長158cm)を服装とアクセサリの加工ができるよう、タンクトップとハーフパンツを着用した状態で、全身写真と、アクセサリは上半身につけるものであるため、明確に見えるよう手を広げた状態の上半身写真、2枚を撮影した。この時、モデルは標準体型とし、先の「若者のコーディネートイメージ」を調査した際、長い髪が多数存在したため、この条件に合ったモデルを選出した。

次に図4に示すようにPhotoshopを使用し、試料ごとに服装とアクセサリとに切り離して、全身と上半身写真を1セットとし、アクセサリ10種と服装10種の全組み合わせ、計100試料を作製した。これをA6サイズに印刷し、評価試料とした。

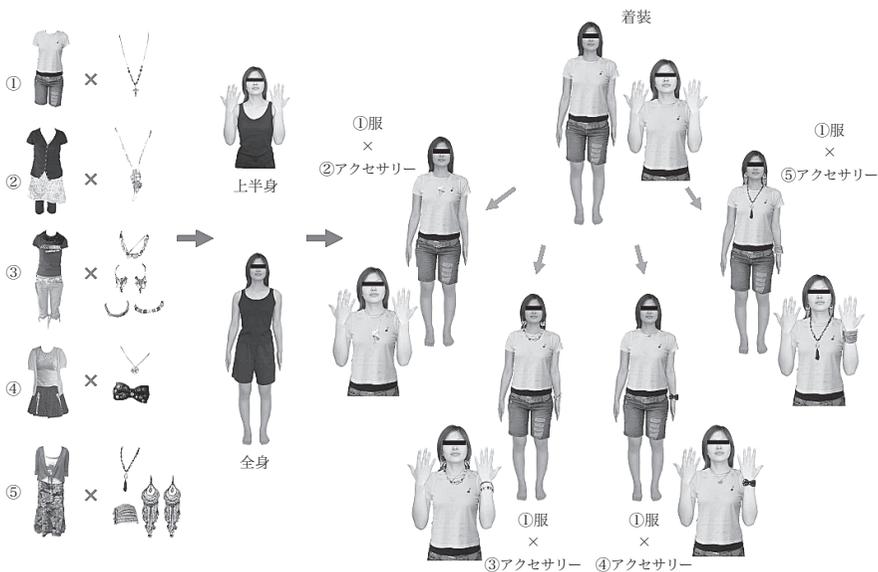


図4 試料作製方法

4-2 評価実験と解析

評価実験は、主成分分析結果より抽出された「女性的」「個性的」「魅力的」の主成分を評価語に用いた。さらに全体に調和がとれているかを確認するため、「似合う」の評価語を加え、片側尺度による4段階評価とした。実験は2005年11月、集合調査法で実施した。被験者は19～22歳の学生55名で、評価は25試料を1回とし10分の休憩をとり順次行った。

解析は、数量化I類を用いた。この方法はイメージの起こり方を予測するために、その要因を分析する方法で、今回は各主成分を代表する評価語に対し、アクセサリと服装がどのような影響を及ぼすかを明らかとするため、得点を外的基準とし、服装とアクセサ

リーの組み合わせを説明変数とした。なお数量化Ⅰ類は、通常、説明変数は要因としていくつものカテゴリーをあげて解析を行うが、今回は多様な種類のコーディネートであるため、アクセサリーと服装の試料をそのままカテゴリーとして解析した。

4-3 要因分析の結果

表2は、要因分析結果であり、代表の組み合わせ例を図5に示す。

「女性的」は、偏相関係数がアクセサリーは0.867、服装は0.872となり、高い数値を示している。これは両者の相乗効果によって、コーディネートが成立しているといえる。要因得点からアクセサリーは、B(ハートネックレス・ピアス)、H(パールネックレス・パールピアス)、E(リボンネックレス・革ブレスレット)、服装は、E(ピンクTシャツ・水玉スカート)、F(ピンクレースチュニック・八分丈パンツ)、H(水色アンサンブル・紺デニムパンツ)、C(黒シャツ・白黒重ね着スカート)の得点が高い。こうした小ぶりや、パールを取り入れたアクセサリーと、ピンクや水色のうすい色、フリルやリボンといった装飾性が施された服装、清楚な服装との組み合わせが、フェミニン、エレガンスと判断され女性的印象を一層強く与えるコーディネートとなっている。図は省略したが、Tシャ

表2 要因分析結果

アイテム	クラス	カテゴリー	女性的		個性的		魅力的		似合う	
			要因得点	偏相関係数	要因得点	偏相関係数	要因得点	偏相関係数	要因得点	偏相関係数
アクセサリー	1	A. クロスネックレス	-0.053	0.867	-0.360	0.950	0.046	0.649	0.081	0.669
		B. ハートネックレス・ピアス	0.433		-0.750		0.256		0.495	
	2	C. ビーズネックレス	-0.085		-0.066		0.114		0.063	
		D. 星ネックレス	0.115		-0.520		0.216		0.481	
	3	E. リボンネックレス・革ブレスレット	0.231		0.114		-0.018		0.015	
		F. 天使ネックレス	-0.005		-0.414		0.088		0.191	
	4	G. カラフルネックレス・リングピアス・革ブレスレット	-0.355		0.670		-0.358		-0.611	
		H. パールネックレス・パールピアス	0.401		0.604		-0.100		-0.291	
	5	I. ウッドネックレス・革紐ブレスレット	-0.321		0.014		-0.050		-0.041	
		J. エスニックネックレス・ピアス・ブレスレット	-0.357		0.704		-0.194		-0.381	
服装	1	A. Tシャツ・青デニムハーフパンツ	-0.389	0.872	-0.248	0.804	-0.254	0.561	-0.299	0.338
		B. ピンクTシャツ・青デニムパンツ	-0.105		-0.332		-0.142		-0.119	
	2	C. 黒シャツ・白黒重ね着スカート	0.197		0.112		0.258		0.171	
		D. 原色シャツ重ね着・黒ハーフパンツ	-0.189		0.008		-0.050		0.041	
	3	E. ピンクTシャツ・水玉スカート	0.423		0.300		-0.092		-0.063	
		F. 重ね着ピンクレースチュニック・八分丈パンツ	0.369		0.010		-0.008		0.031	
	4	G. 黒Tシャツ・ベージュ八分丈パンツ	-0.247		-0.178		-0.020		-0.019	
		H. 水色アンサンブル・紺デニムパンツ	0.199		-0.162		0.074		-0.019	
	5	I. 原色キモノスリーブシャツ・サルエルパンツ	-0.387		0.370		0.080		0.143	
		J. 原色タンクトップ重ね着・花柄ロングスカート	0.133		0.117		0.154		0.135	
平均スコア			2.267	2.393	1.738	1.977				
重相関係数			0.928	0.958	0.736	0.696				

若者のアクセサリーに対する意識とファッションとの関係

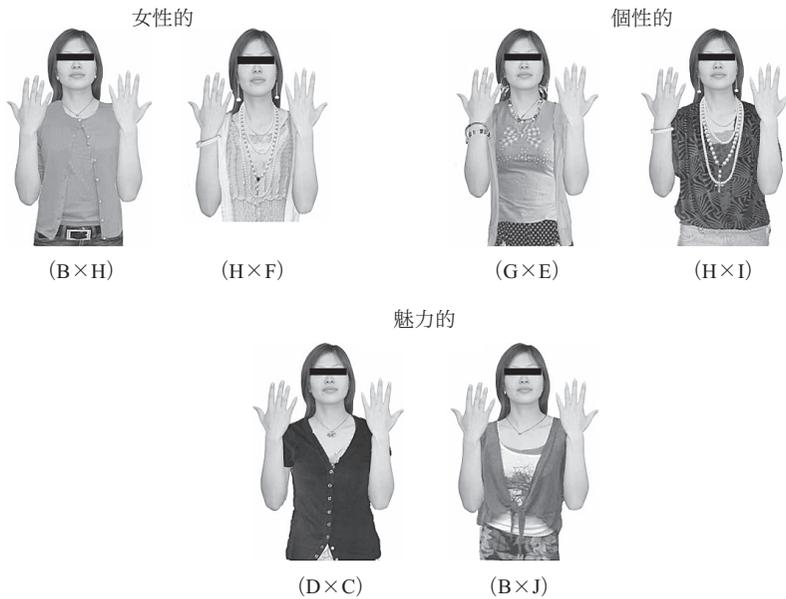


図5 要因得点によるアクセサリーと服装の組み合わせ例
(アクセサリー×服装)

ツ、重ね着のパンツに、カラフルなアクセサリーや大きな目立つアクセサリーを組み合わせると、男性的印象を与える。

「個性的」は、偏相関係数がアクセサリーは0.950、服は0.804を示し、「女性的」主成分と同様、両者が影響を及ぼしている。要因得点からアクセサリーは、J(エスニックネックレス・ピアス・ブレスレット)、G(カラフルネックレス・リングピアス・革ブレスレット)、H(パールネックレス・パールピアス)、服装は、I(原色キモノスリーブシャツ・サルエルパンツ)、E(ピンクTシャツ・水玉スカート)の得点が高く、この組み合わせが個性的印象を強くする。「個性的」は、アクセサリーのデザインの大きさや色彩も影響するが、身に付ける場所が首、腕、耳と多部分であることから、視線が次々に動き、服装よりも目につくと考えられる。反対にB(ハートネックレス・ピアス)、D(星ネックレス)のアクセサリーとB(ピンクTシャツ・デニムパンツ)の服装との組み合わせは、要因得点が低くなり、平凡なコーディネートとなる。

「魅力的」は、偏相関係数がアクセサリーは0.649、服装は0.561である。要因得点からアクセサリーは、B(ハートネックレス・ピアス)、D(星ネックレス)が高いが、これらは「個性的」において平凡と評価されたものである。しかし服装は、C(黒シャツ・白黒重ね着スカート)、J(原色タクトップ重ね着・花柄ロングスカート)の要因得点が高く、小ぶりなアクセサリーと、モノトーン色や柄物が配された重ね着の服装スタイルの組み合わせが大人っぽく、魅力的な印象を与えている。このようにイメージの異なるアクセサリーや服装を組み合わせることにより、新しいイメージを表現できることがわかる。

全体に調和がとれているかを検討するために加えた「似合う」は、偏相関係数がアクセサリーは0.669、服装は0.338となり、服装よりもアクセサリーによる影響が大きい。要因

得点からアクセサリ、服装ともに「魅力的」と同様の試料得点が高いことがわかる。これより若者が評価する「似合う」は、人物が魅力的に見えることと共通性があることが示唆された。なお各評価語の重相関係数は、0.9280, 0.9579, 0.7364, 0.6961である。

以上、アクセサリと服装との組み合わせの方法により、様々なイメージを変化させることができた。これまで服装の付属品として意識されていたアクセサリは服装と同等、それ以上の影響を着装者に与えることが明らかとなり、アクセサリを自由な発想の基に取り入れ、服装の印象を強くしたり変化させたりすることができ、コーディネート幅が広がることを確認した。また豪華で多彩であり、美しく着飾ることが女性の象徴とされてきた中世や近世のアクセサリに比べ、現代はシンプルでさりげないデザインが女らしさを演出し、目につくデザインや多数身につけることが個性を演出する方法であることを若者は認識していることも明らかとなった。

5. おわりに

本研究は、付属品にすぎなかったアクセサリが現代の服装において大きな役割を果たしていると考え、調査研究した。

若者のアクセサリに対する意識調査の結果、所持率は高くアクセサリは今や無くてはならない存在であり、特別な理由がなくても日常的に身につけている。しかし、古代からの意識の違いは明らかであり、現代は実用的機能を重視するのではなく、人間の遊び心から生まれてくる“おしゃれ”のためであった。ものが豊富にある現代は、アクセサリのデザインも豊富であり、“おしゃれ”をすることに関心がある若者が、こうした意識を持つことに無理は無いといえる。

服装調査を行い主成分分析した結果、コーディネートイメージは「女性的」「個性的」「魅力的」の3主成分が抽出された。ついでクラスター分析した結果、服装傾向は「シンプル・パンツスタイル派」「重ね着スタイル派」「女性的スタイル派」「魅力的スタイル派」「個性的スタイル派」の5グループに分類され、各クラスターの特徴を把握することができた。

各クラスターを代表するコーディネートに対して、アクセサリと服装を組み変えて「女性的」「個性的」「魅力的」に「似合う」を加え要因分析した。その結果、アクセサリが服装に与える影響は大きく、アクセサリの大きさや色、身につける数により、服装と同等の影響を与えることが確認できた。また「似合う」については「魅力的」と共通した傾向を示し、現代若者の意識として、アクセサリと服の調和がとれて着装者に似合っていることは、人物が魅力的に見えていると評価していることが示唆された。

以上、アクセサリは服装との相乗効果によってコーディネートイメージを変える。手軽で確実に印象を変えるアクセサリは若者にとって馴染み深いものであり、必要度が高いといえる。そして個性が進む現代だからこそ自己表現する意味を見直すべきではないだろうか。私たちに個性があるように、身につけるものにもそれぞれ個性がある。従って自分たちの個性をより自由に手軽に表現できるのはアクセサリであると思われる。こうした意味をもう一度理解し、身につけることで、現代の若者はより新しい面白さを発見でき自己表現ができるのではないだろうかと考える。

参考文献

- 1) 奥谷厚元：ファッション環境の近未来，ファッション環境，12(1)：3-6，2002.
- 2) 橋本令子，石原久代，栗田容子，加藤雪枝：服装コーディネートに及ぼすアクセサリーの影響，日本家政学会第55回大会，194，2003.
- 3) 大澤香奈子，石原久代：着装イメージに関与するアクセサリーの諸要因，繊維製品消費科学会2005年次大会，77-78，2005.
- 4) 砂川一郎：ジュエリー・コーディネーター検定3級，日本ジュエリー協会，1997.
- 5) 田中有希子，直井恵：名古屋におけるファッションの実態調査，椋山女学園大学平成7年度卒業研究.